

支援 1 事業概要等説明資料



令和7年12月9日

1. 本学の概要 ① 沿革

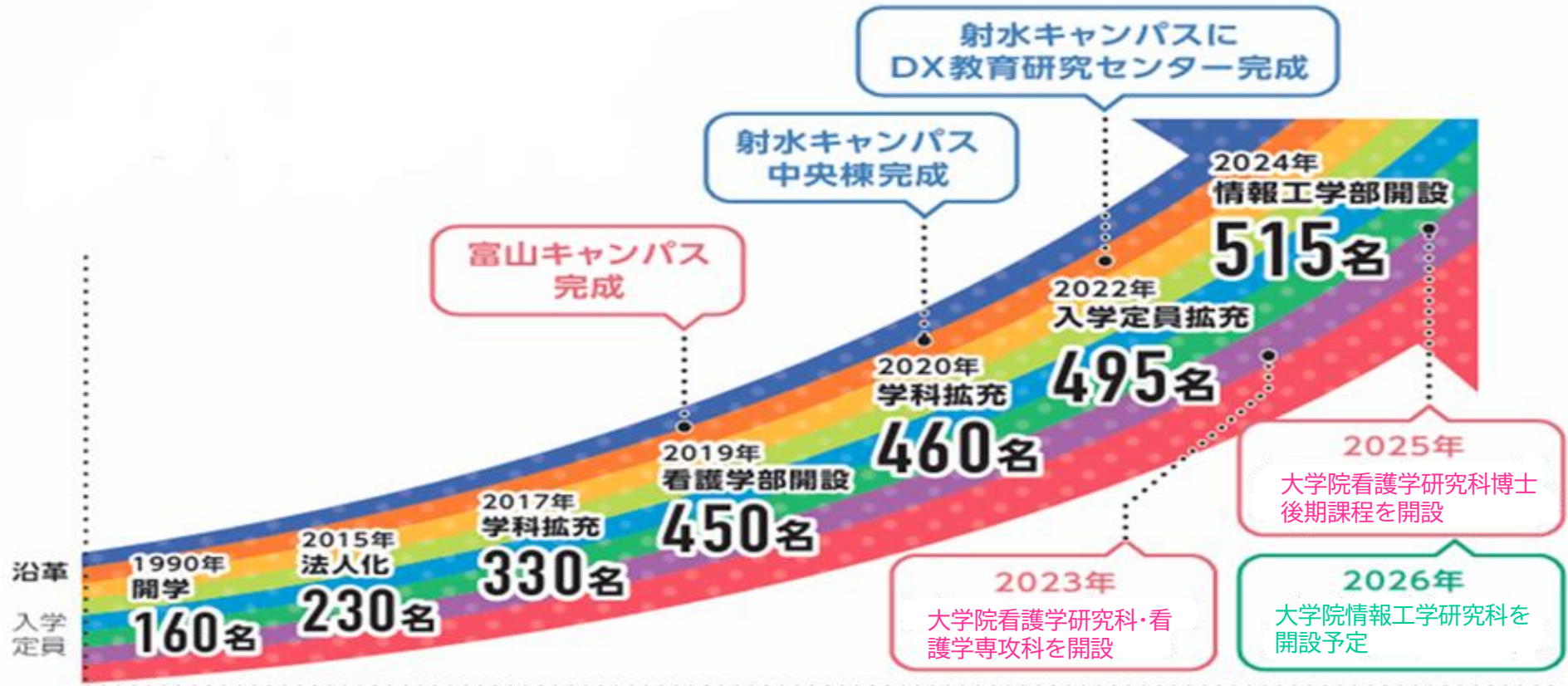
➤ 社会や地域の要請に応じ、学部・学科を積極的に改組・拡充

2019年 看護学部の開設

2024年 情報工学部の開設

2025年 看護学部大学院博士後期課程の開設

2026年 大学院情報工学研究科を開設予定



1. 本学の概要 ② 学部・学科等

●射水キャンパス(富山県射水市)

工学部	機械システム工学科、電気電子工学科 環境・社会基盤工学科 生物工学科、医薬品工学科
情報工学部	データサイエンス学科 情報システム工学科 知能ロボット工学科
大学院(工学・情報工学※)	博士前期課程、博士後期課程

※令和8年度開設予定

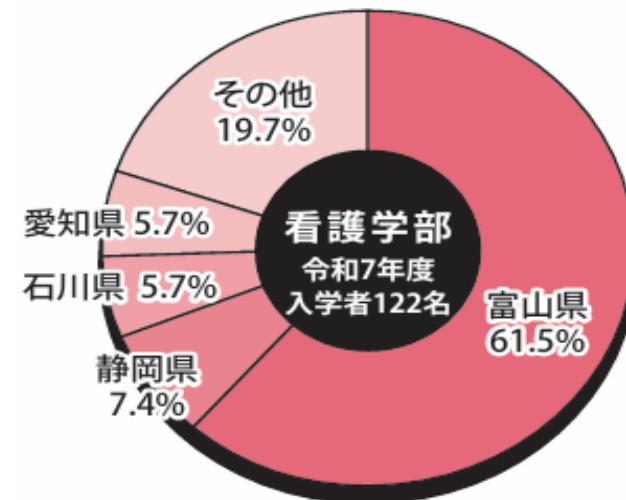
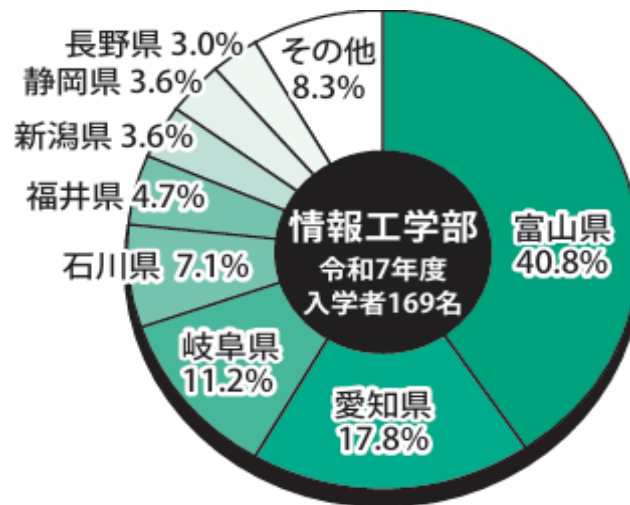
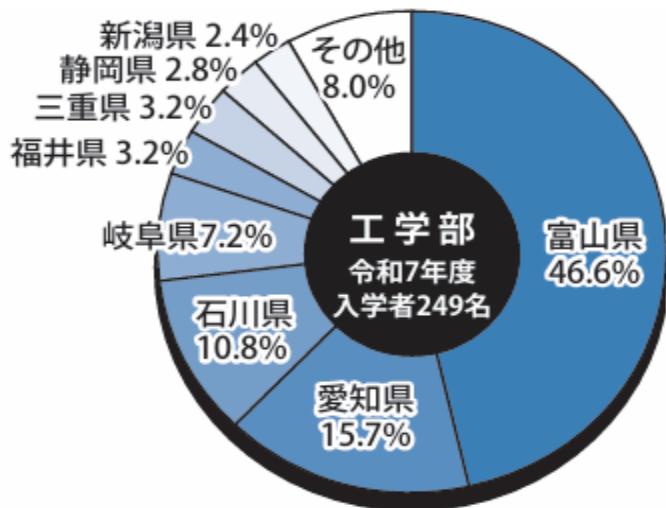


●富山キャンパス(富山県富山市)

看護学部	看護学科
看護学専攻科	公衆衛生看護学専攻、助産学専攻
大学院(看護学)	博士前期課程、博士後期課程

1. 本学の概要 ③ 学生の状況等

○令和7年度入学生の出身地割合



○令和7年度(R7.5.1)学生数

	学生数	(内女子)
工学部	1,307	(314)
工学研究科博士前期	311	(61)
工学研究科博士後期	26	(6)
情報工学部	340	(35)
小計	1,984	(416)

	学生数	(内女子)
看護学部	483	(450)
看護学研究科博士前期	21	(19)
看護学研究科博士後期	2	(1)
看護学専攻科(助産・公衆衛生)	23	(23)
合計	2,513	(909)

1. 本学の概要 ④ 就職状況(工学部)

○工学部卒業生の就職・進学率推移(%)

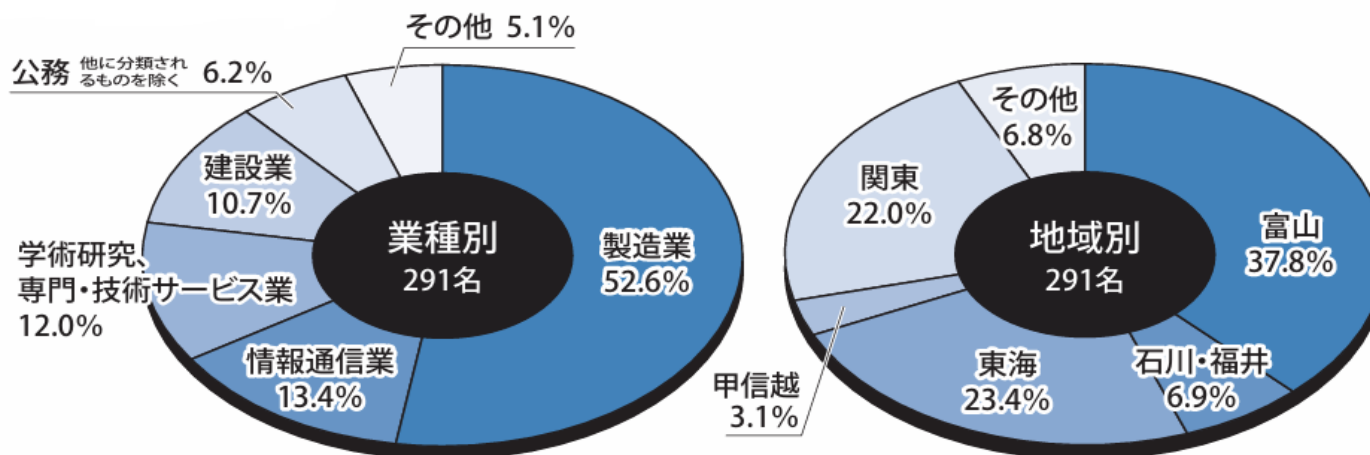
卒業年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
就職率※1	99.3	100	97.7	99.0	99.5	100	97.9
進学率※2	33.6	33.3	35.4	37.7	37.7	45.2	44.6

就職率は毎年ほぼ100%

※1: 就職希望者に占める就職内定者の割合

※2: 学部卒業生全体に占める大学院等進学者の割合

○工学部・工学研究科の就職状況(令和6年度)



【県内就職率の高さの理由】

- 研究シーズと企業ニーズのマッチングを促進(地域連携センター等)
- 県内企業向け就職状況説明会を開催
- 低年次からの企業訪問充実
- 本学OB・OGとの意見交換会を実施等

就職者の約45%が北陸3県で就職

1. 本学の概要 ⑤ 就職状況(看護学部)

●看護学部卒業生の就職・進学率推移(%)

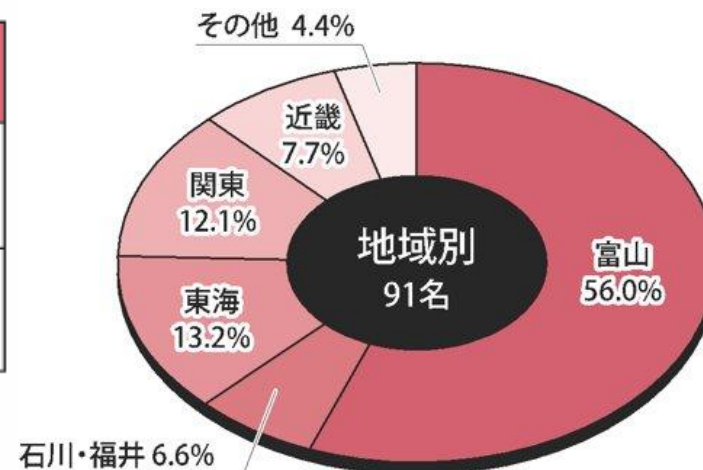
(各年3月31日現在)

卒業年度	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)
就職率 ※1	100	100	100
進学率 ※2	25.8	20.7	19.7

※1: 就職希望者に占める就職内定者の割合

※2: 学部卒業生全体に占める大学院等進学者の割合

就職状況(令和6年度)



看護学部卒業生の進路状況

○主な就職先

富山県立中央病院、あさひ総合病院、黒部市民病院、富山ろうさい病院、かみいち総合病院、富山大学附属病院、富山赤十字病院、済生会富山病院、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、高岡市民病院、済生会高岡病院、JCHO高岡ふしき病院、厚生連高岡病院、金沢医科大学氷見市民病院、北陸中央病院、市立砺波総合病院、南砺市民病院 等

○主な進学先

富山県立大学看護学研究科、同看護学専攻科(公衆衛生看護学専攻、助産学専攻) 他

2. 事業概要

令和5年度選定 支援1

富山県立大学



<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
 改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
 設置等組織名：情報工学部
 入学定員：【R6新設】160名
 所在地：富山県射水市

富山県成長戦略「新産業戦略」

企業における生産性の向上、商品・サービスの高付加価値化に向けたDXを推進
 ⇒担い手となるデジタル人材の育成が課題

データサイエンス人材育成に係る有識者会議

新学部設置を念頭に、①育てるべき人材像、②教育組織の方向性、③入学定員、④教育課程の方向性、⑤学修環境の充実などについて協議
 （構成員：県経営者協会、県機電工業会、東京大学教授、本学学長など）

<提言内容>

- 数理・データサイエンスの専門教育を行う学部学科を新設し、これと関連深い分野の工学部の学科を再編し、情報を軸とする一体的な教育組織とすべき
- 数理・データサイエンスの力を着実に身につけ、これに現場の課題を解決する力を兼ね備えられる教育課程を構築すべき

県内外企業採用意向アンケート

県内外502社を対象とした調査の結果、情報工学部各学科卒業者の採用意向人数の計は各学科の入学定員の約4~5倍
 ⇒養成する人材への社会的、地域的ニーズ高い

県内高校生進学意向アンケート

全日制高校44校中18校を対象とした抽出調査において、情報工学部各学科へ「入学意向あり」と回答した生徒数は各学科の入学定員の3~5倍
 ⇒十分な学生確保の見通しを備えている

情報工学部

データサイエンス学科
 情報システム工学科
 知能ロボット工学科

「情報」を軸とする工学の専門知識と、データサイエンスの専門知識を兼ね備え、現代社会が抱える課題を認識し、より良い解決策を見出す能力と意思を持った人材を育成

入学者選抜

理系を重視した基礎学力に加え、それらの知識を活用した論理的な思考力・判断力・表現力を総合的に評価し、大学での学修に必要な資質・能力等を的確に評価

教育の特色

1. データサイエンスの専門教育
情報を軸に、機械・電子などの工学の専門知識、データサイエンス理論の素養を併せ持つ情報工学専門人材を育成
2. 少人数教育
少人数によるゆきとどいた教育体制を構築
3. デザイン思考による課題発見解決力
課題解決方法としての「デザイン思考」の授業により、産業界や社会が抱える潜在的課題を認識し、より良い解決策を見出す能力を育成
4. 企業の技術者との連携授業
教員自身の実務経験を活かした実践的な教育や、企業等で活躍している技術者、研究者を招聘する特別講義の実施
5. 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成
本学教養教育センターの専任教員が担当する豊富な教養科目のカリキュラム編成により、人間性豊かな人材を育成
6. 学生の自立を促すキャリア教育
本学キャリアセンターが提供する各種キャリア形成のためのプログラムにより、学生が生涯にわたるキャリア形成について主体的に考え行動できる能力を育成

他機関との連携

- ものづくり産業の最新の研究・技術動向の理解などを目標に、企業で活躍している研究者や技術者を講師として招聘
- 学外の著名な学者や注目されている分野で活躍中の研究者など、他大学教員や各種研究機関の研究者、企業人を招聘した特定のテーマに関する授業を展開
- キャリア教育事業の企業と連携し、学生の生涯にわたるキャリア形成能力を育成

多様な入学者の確保 地域の初等中等教育段階の学校との連携

- 県内外の高校に本学教員が出向き講義を行う「出張講義」「学部・学科紹介講座」や、高校生が大学で講義や実験などを体験する「科学技術体験講座」を実施
- 県内高校が取組む科学探求講座や課題研究などの実施への協力

教育研究環境の整備

収容定員増や専任教員の増、新たな教育研究分野に対応した環境整備に加え、デジタル・グリーン等の成長分野に係る共同研究を推進するための新棟を整備

外部資金の獲得

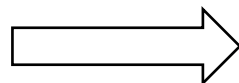
- 大学全体の外部資金獲得額を、従来の実績平均に支援額の2.5%を上乗せした水準以上とすることを目指し、情報工学分野の研究を推進
- 一層の機会創出に向け、学内のシーズ発掘や産業界のニーズ把握、産学官の共同研究等の促進、公募情報の収集及び学内への周知、申請書類作成等にかかる事務的支援などを実施

新棟 完成予定図



2. 事業概要 ① 情報工学部の設置

令和5年度まで



令和6年度から

工学部

(入学定員375名)

機械システム工学科(60名)

知能ロボット工学科(70名)

電気電子工学科(45名)

情報システム工学科(70名)

環境・社会基盤工学科(55名)

生物工学科(40名)

医薬品工学科(35名)

工学部

(入学定員235名)

機械システム工学科(60名)

電気電子工学科(45名)

環境・社会基盤工学科(55名)

生物工学科(40名)

医薬品工学科(35名)

新

情報工学部

(入学定員160名)

新

データサイエンス学科(40名)

情報システム工学科(60名)

知能ロボット工学科(60名)

2. 事業概要 ② 情報工学部の教育概要

～未来社会を創造するデジタルのエキスパートへ～

「情報」を軸とする工学の専門知識と、データサイエンスの専門知識を兼ね備えた人材の育成や、社会の潜在的課題を見極め、解決策を見出す能力を持った人材の育成を目指す。

6つの教育の特色

1. データサイエンスの専門教育
2. 少人数によるゆきとどいた教育
3. デザイン思考による課題発見解決力
4. 企業の技術者との連携授業
5. 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成
6. 学生の自立を促すキャリア教育

学科構成

- **データサイエンス学科**（入学定員40名）
データサイエンスの理論と応用実践を教育するとともに、情報を軸とする工学の専門知識を教育することで、工学のマインドを持ったデータサイエンスのエキスパートを育成
- **情報システム工学科**（入学定員60名）
リアル世界とバーチャル世界から得られるデータを活用するための情報基盤技術を教育し、新しい情報システムの開発に貢献できる人材を育成
- **知能ロボット工学科**（入学定員60名）
情報・機械・電子の3つの工学分野に立脚するロボットに関わる工学やデータサイエンスの基礎を教育するとともに、革新的な科学技術を創造できる人材を育成

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)

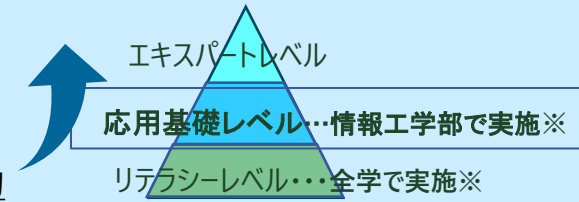
目的

☆本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に準拠している。

数理・データサイエンス・AIを活用し、自らの専門分野等において、課題解決や価値創造等に取り組むことができる実践的な能力を身につける。

特色

- ①専門性を活かした学び
 - ②課題解決のための実践力
 - ③エキスパート人材の育成への橋渡し
- ※国から認定済



修了要件

(各学科で指定する科目の単位修得が必要)

データサイエンス学科19単位
情報システム工学科22単位
知能ロボット工学科18単位

プログラム修了者には修了証を発行！
就職活動等で知識・スキルをアピール！

3. 進捗状況 ① 学生確保の状況

○情報工学部の受験者数等

	入学定員	令和6年度				令和7年度			
		受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率
データサイエンス学科	40	99	52	40	1.9	78	52	41	1.5
情報システム工学科	60	232	75	68	3.1	189	74	61	2.6
知能ロボット工学科	60	105	78	63	1.3	126	79	67	1.6
計	160	436	205	171	2.1	393	205	169	1.9

○情報工学部開設記念フォーラムの開催

- 情報工学部の開設を記念したフォーラムを令和6年8月9日に開催

○基調講演「システム情報学を礎としたまちづくり」
藤井信忠氏（神戸大学DX・情報統括本部情報基盤センター教授）

○一般講演（本学教授）
「新学部建屋を利用したエネルギーミックスマネジメントと水素活用技術の創成」
「AIに基づく富山の災害予測とGXに基づく気候変動への適応」
「AI・データサイエンスによる都市交通の未来」

- 約220名(オンライン含む)に参加いただき、そのうち、高校生は70名が参加するなど、情報工学分野の魅力を発信

富山県立大学
情報工学部開設記念フォーラム

日時 2024年 8月9日(金) 13:30~15:30(開催 13:00)

会場 富山県立大学射水キャンパス 中央棟大講義室
(富山県射水市泉河5160)

対象 高校生、高校教員、
企業・団体関係者、大学生、一般市民の方など

(プログラム)

- 13:30 開会挨拶 下山 龍平 氏
- 13:40 基調講演 システム情報学を礎としたまちづくり 藤井 信忠 氏 (神戸大学DX・情報統括本部情報基盤センター教授)
- 14:25 一般講演 新学部建屋を利用したエネルギーミックスマネジメントと水素活用技術の創成 坂坂 暢 (工学部附属・社会情報工学科 教授)
- AIに基づく富山の災害予測とGXに基づく気候変動への適応 呉 修一 (工学部附属・社会情報工学科 教授)
- 14:55 一般講演 AI・データサイエンスによる都市交通の未来 中村 正樹 (情報工学部データサイエンス学科 教授) 藤原 一紀 (情報工学部データサイエンス学科 教授)
- 15:25 閉会挨拶 高木 昇 (情報工学部)

オンライン視聴も可能

3. 進捗状況 ① 学生確保の状況

○学生確保の取組み

- ・県内外の高校への出張講義(R6:33校55講義)
- ・高校生向け科学技術体験講座の開催(R6:4校に実施し、計141人の学生が受講)
- ・きらめきエンジニア事業への参画(R6:9つの小中学校で実施、計424人参加)

- 「高大が連携し、一緒に講座をつくりあげる」ことを旨とし、高校側にもTAの経費を負担いただくなど、高校自身の取組み・年間行事として認識いただくよう留意している。
- 初中連携に関する事業については積極的に応じているが、先方の実施希望時期が集中し、要望に応えきれないなど、調整に苦慮している。
- 本学に進学する者のうち、出張講義や体験講座を受講した学生が一定数いることから、当該取組みが進路選択や本学の教育・研究内容の理解に一定程度の役割を果たしてきていると感じている。

【その他】

- ・高校の探求学習に対する本校教員の派遣
- ・県内外の高校訪問(R6:延621校へ訪問)
- ・大学コンソーシアム富山と連携したイベントの開催
- ・アカデミックインターンシップ(17歳の挑戦)への協力 など



科学技術体験講座の様子

3. 進捗状況 ① 学生確保の状況

○社会人学生確保の取組み

- ・社会人に役立つレディメイド型講座や企業・団体の要望に応じたカスタムメイド型講座を開催するなど、県内企業従業員のリカレント教育やリスキリングを支援。
- ・企業や自治体を対象としたオープンハウスイベントやセミナー等を積極的に開催し、教員と企業・自治体との継続的な協同関係の構築を図る。

- 昨今の働き方改革を背景とする企業や労働者の意識の変容を受けて、内容や運営方法を適宜柔軟に変えていく必要が出てきていると感じている。
- イベント等において、企業の理解度向上を図るため、単なる研究成果の発表ではなく、教員の有する研究領域と企業が活用できる技術をより具体的に発信するよう留意している。
- 社会人学生の確保はなかなか難しいが、このような取組みが、本学大学院への社会人入学に関心をもつ企業や従業員の方が増えるきっかけになればと考えている。

【開催したセミナー等の例】

唐山 英明
富山県立大学
DX教育研究センター
所長

上岡 玲子
株式会社 zerozon
代表取締役社長

田川 和義
富山県立大学
DX教育研究センター
副所長

廣瀬 通孝
東京大学
名誉教授

「富山県立大学・メタバース推進協議会」
コロナ企画イベント

**メタバースによる
地域活性化を考える**

～富山県におけるメタバースの仕掛け（キックオフ）～

2024.11.6(WED)
12:30-17:30

開催：富山県立大学 DX教育研究センター 1階
（※オンライン配信実施）

とやま共創実践ラボ

共創型実践に向けたマインドセット

養成プログラム

富山県立大学 DX教育研究センター

全4日間の講座

対象：富山県内に拠点を置く企業の方
県内自治体、県庁関係者の方 他

11/5 (火)、11/12 (火)
11/26 (火)、12/10 (火)
各13:00～18:00

DXセミナー

腹落ちするDX

参加費 無料

第1回 産業編 10月21日(月) 15:00～16:30 定員先着30名
(受付時間 14:30-15:00)

講師 株式会社シオラボ 代表取締役 中川 郁夫氏

3. 進捗状況 ② 教員確保の状況

○情報工学部の教員数(5月1日現在)

入学 定員	令和6年度					令和7年度				
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計
データサイエンス学科	4	3	1	3	11	6	3	0	4	13
情報システム工学科	6	2	4	4	16	6	1	5	3	15
知能ロボット工学科	6	6	6	2	20	6	7	5	3	21
計	16	11	11	9	47	18	11	10	10	49

○教育課程の質の向上(FD研修会の開催)

全学の教員を対象としたFD研修会を毎年開催。大学教育をとりまく状況や課題等の共通認識を持つとともに、学習効果の高い取組事例の紹介や教育改善の好事例の報告など積極的な情報共有により、大学全体の教育課程の質の向上を図っている。



FD研修会の様子

【FD研修テーマ(全学向け)】

- R5年度 ①県内高校における情報科目の実態について、②DSリテラシー科目について 等
- R6年度 ①学生の自殺防止について、②昨今の本学の取組みについて
- R7年度 ①配慮学生への対応について、②本学の内部質保証体制について

3. 進捗状況 ③ 外部機関との連携状況

○富山県機電工業会（企業）や自治体との連携

- 令和7年度から情報工学部の2学年前期科目として、「デザイン思考」を開講。県内市町村や企業から外部講師を招聘し、「地域の共創スペースのリデザイン」をテーマとしたグループワークを実施。

➤ 新しい科目として教員も手ごたえを感じており、今後もデザイン思考の手法を活用した柔軟な発想力、多様性を備えた真の課題解決に取り組む技術開発者・研究者の育成を目指した授業となるよう取り組んでいきたい。

- 令和7年度から情報工学部2学年後期科目として、富山県機電工業会との連携のもと、同会員企業からものづくりの第一線で活躍している研究者や技術者を講師として招聘し、オムニバス形式で講義を行う科目を開講

【協力企業】

スギノマシン、コマツNTC、魚岸精機、不二越・富山事業所、CKサンエツ、三協立山、富山村田製作所、シキノハイテック、ファインネクス、マイクロジェニックス、北陸コンピュータサービス、インテック など

➤ 開講間もないことから、成果や課題については今後検証していくが、学生が県内の産業構造や最新の研究・技術動向の理解を深めるとともに、企業の現場が抱える課題の発見・解決方法の提案につながるような実践力を養う授業となるよう取り組んでいきたい。

3. 進捗状況 ④ 施設・設備の整備状況

○情報工学部の教育研究環境の整備

1 新棟(情報工学研究棟)建設 (令和8年4月供用開始)

- 情報工学部の設置に伴い、講義室、教員室、研究室などを増設
- データサイエンスの専門教育を実践するための教育研究環境に加え産学官による分野横断的な共同研究を推進する「**グリーン×AI教育研究拠点**」を整備
- 鉄骨造4階建て 延べ床面積 4,044.55㎡
- 建設工事費 30億1,730万円(付帯工事別途)
- 従来の建築物の消費エネルギーを50%以下まで削減した基準である「ZEB Ready(ゼブ レディ)」を達成

4 F	教授会室、会議室、教員室、研究室
3 F	教員室、研究室
2 F	データサイエンス演習室、学科事務室・資料室、教員室、研究室
1 F	講義室、学生実験室、グリーン×AI教育研究拠点

2 研究備品の整備

県の支援を受けて、情報工学部の研究備品を整備

R6年度予算 5億9,750万円

R7年度予算 5億6,154万円



情報工学研究棟外観



情報工学研究棟
1階交流ホール

3. 進捗状況 ④ 施設・設備の整備状況

○グリーン×AI教育研究拠点

産学官による分野横断的なテーマの共同研究を推進。主に4つのインフラ系項目について、AI・データサイエンスによる分析や将来予測を取り入れ、GXによる課題解決(グリーン化)、社会実装に向けた研究を展開。

教育研究項目	研究内容・目的(予定)
1. エネルギーミックス	<ul style="list-style-type: none">・太陽光などの自然エネルギーや、電力網からの電力を効率よく使うため、水素蓄電池、充電池、EVへの充電、放電などのマネジメントを行い、新棟を使って照明、冷暖房の最適の実証実験を実施。・さらに、ユーザーにその情報を還元し、グリーンな行動変容を促すための行動学的側面や、料金などの経済的な側面を教育研究し、富山発の社会実装モデルを提言する。
2. インフラの長寿命化	<ul style="list-style-type: none">・インフラの長寿命化(更新頻度の低下)による天然資源・エネルギーの削減や廃棄処理の削減を目指す。・さらに、インフラ構造物への廃棄物のリサイクル活用も研究。・劣化診断や、長寿命化予測のエビデンスとしてのデータ分析をスケールダウンした実験室実験装置で取得し、さらにフィールドでも展開する。
3. 河川流域の水・土砂災害予測	<ul style="list-style-type: none">・豪雨等による災害の予測をするため、ドローンや衛星、気象レーダからの画像を解析する方法があるが、実際のフィールドの状態が画像にどのように反映されるのか、実験室でダウンスケールモデルを利用して相関関係や流域整備効果を調べる。・さらに、フィールドに展開して、河川流域の災害予測や河川・海岸・砂防整備に資する。
4. 製薬プロセスのグリーン化	<ul style="list-style-type: none">・製薬プロセスの実験室レベルでのパイロットプラントを設置し、バッチ生産、連続生産を通して、環境負荷の定量的な評価や最適化をおこなう。(特に連続生産は、生産性及び安全性が高く、廃棄物による環境負荷が小さいグリーンな製造方法といわれている)・さらに、受託生産の受託時に要求される環境負荷のデータを取得できることを示す。

3. 進捗状況 ④ 施設・設備の整備状況

○DX教育研究センター(令和4年4月設置)

1 設置趣旨

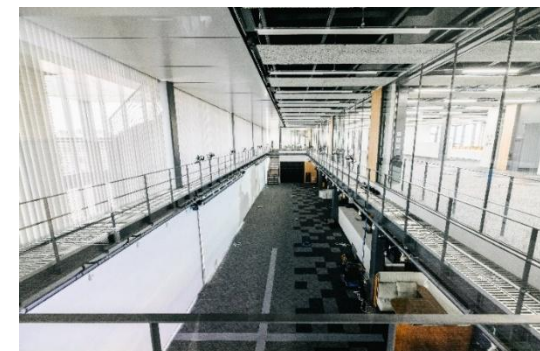
デジタル化の進展に対応した人材を育成するとともに、県内DXの産学官連携の教育研究拠点となるDX教育研究センターを令和4年4月に設置。企業や自治体を対象としたセミナー、オープンハウスイベントなどを開催。

※アソシエイト会員 682名(374社)(R7.10月末現在)

2 施設概要

研究・実験スペース、オープンスタジオ、コワーキングスペースなどを整備

- ・ モーションキャプチャ、CAVE(VRシステム)、CNC3次元測定機、3Dプリンタなど最新の研究機器を整備。
- ・ センターでの各種センサー、ロボット等の端末同士の双方向通信情報を伝送するための学内LANを整備。さらにR7年度は、リアルタイムかつ大規模なセンシングデータの収集と分析を行うための最新移動通信システムであるローカル5Gネットワークを整備。



オープンスタジオ



CAVE(VRシステム)

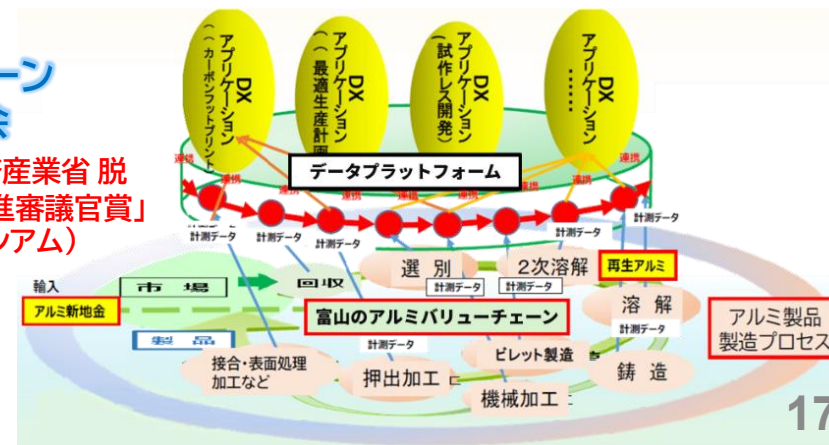
3 主な研究プロジェクト分野

教員・学生に加え民間企業、自治体で、AI・ビッグデータを活用した分析などの共同研究を推進。

- ①ものづくり(製造領域)分野
- ②医療・看護・ヘルスケア分野
- ③屋外・フィールド分野

アルミバリューチェーン グリーン化研究会

※LCA日本フォーラム「経済産業省 脱炭素成長型経済構造移行推進審議官賞」受賞(とやまアルミコンソーシアム)



3. 進捗状況 ⑤ 外部資金の状況

○外部資金の獲得実績

(件、百万円)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
件数	300	336	354	355	372	376	393
獲得額	414	503	502	516	485	455	501

- ▶ 外部資金の状況について、獲得額は目標額(547百万円)には届いていないが、件数は堅調に推移してきている。
- ▶ 今後は、大型研究費の獲得支援を強化し、科研費やJST、NEDOなどの競争的資金に加え、企業との共同研究や受託研究の拡充に力を入れていく。
- ▶ これまでも、約240社からなる「富山県立大学研究協力会」との交流会の開催など、教員と企業が直接対話する機会や新たな共同研究へとつながるマッチングの場の創出に努めてきた。
- ▶ 令和7年度から新たに「産学連携勉強会」を開催し、大学との共同研究は敷居が高いと感じる企業への情報提供やニーズの掘り起こしに努めているところ。参加企業からは「産学官連携の考え方を整理できた」など好感触を得ており、引き続き取組みを推進していく。
- ▶ また、外部資金の採択率向上を目指し独自の研修を実施するなど、研究者の申請意欲を高める仕組みづくりにも取り組んでおり、さらなる外部資金の獲得に努めていきたい。